年　組　名前

道新でワークシート

浦河へ帰ろう― 出身者向けに（A）

町内NPOが創刊

30歳以下は購読無料

「Uターン増やしたい」

【浦河】町内のNPO法人「カエロ」は、浦河で働くUターン者の声や、浦河でのライフスタイルを発信する広報誌を創刊した。町外で暮らす地元出身者がターゲット。若者や子育て世代の町外流出が課題となる中、30歳以下の購読費を無料にし「Uターンを選択肢にする人が増えるきっかけにしたい」と期待を込めた。

（中橋邦仁）

創刊号は今月1日にB5判、オールカラーの15ページで発刊。題名も法人名と同じく「カエロ」で「地元に帰ろう、今を変えろ」の意味を込めた。同法人代表理事の村下知宏さん(32)と、副理事でデザイナーの山口このみさん(34)はいずれも浦河出身のUターン組。村下さんは東京などで地域活性化に携わった後、2012年に浦河に戻って起業。山口さんは17年1月から地域おこし協力隊員を務める。

2人は18年11月に同NPOを結成し、広報誌作りを模索。村下さんは「今まではUターンに興味がある人がいても、具体的な仕事や生活の情報が少なく、もったいないと感じていた」と狙いを語る。

創刊号のメインは「浦河出身の先輩に聞こう」と題したインタビュー。大阪などでの修業を経て、町内に居酒屋「辰味」を開いた大道龍一さん(31)と、浦河東部小教諭の紫竹陽介さん(34)が登場し、浦河にUターンした理由や帰ってきてよかったこと、苦労話などをQ&A方式で紹介している。

ほかにもバードウオッチングのサークルや町唯一の映画館「大黒座」を取り上げ、町内での余暇の楽しみ方を提案。浦河ならではの食文化を紹介するコーナーもある。今後、7月と12月の年2回発行する。

30歳以下の購読者には無料で郵送。31歳以上は「サポート購読会員」（年会費1500円）、法人の活動に携わる「活動サポート会員」（同3千円）として購読できる。2月末に浦河高の本年度卒業生全員に無料配布したほか、すでに道内の大学生など30人以上から購読申し込みがあったという。購読費は今後の発行経費に充てる。

編集や取材を担当する山口さんは「Uターン者それぞれが興味深い人生ドラマを持っていて、今後も一人でも多くのストーリーを掘り起こしていけたら」と意欲を語る。購読申し込みはカエロのホームページまたは☎0146・26・9820（村下さん）へ。

２０２０年３月１７日（火）　朝刊　苫小牧・日高版　１６P（記事は再編集しています）

①見出しの（　A　）に入る言葉を、記事の中から三文字で書き抜きなさい。

□□□

②記事の中の「Uターン」の意味として、適切なものを選びなさい。

ア　一度大都市で就職した人がふるさと近くの都市で就職し、定住すること。
イ　一度大都市で就職した人が故郷へ戻って就職し、定住すること。
ウ　出産や子育てなどで会社を一度辞めた女性が再び仕事に就くこと。
エ　都市部出身者が出身地とは別の地域に就職し、定住すること。

□